

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科 医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18003	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	文学 (Literature)				
担当教員名	三舟 隆之				
授業の概要及び到達目標					
<p>〔概要〕 浦島太郎の物語が古代伝承をベースとし、各時代によって変化したことを理解する。 〔到達目標〕 日本人にとって、「浦島太郎」の物語は誰もが知っている物語であるが、実はこの物語は中国の神仙思想を基にした不老不死の物語であった。ところがそれが時代とともに、さまざまに変化し、現在の我々が知る、浦島物語に変貌する。この講義は、そもそももとなる浦島説話がどのようなものであったか、その背景にあった不老不死へのあこがれについて言及し、かつその後の浦島説話がどのように変化して、現代の形になったか、その過程を理解する。</p>					
準備学習等					
<p>授業は講義形式で行う。授業内容は、</p> <p>第1回：現代の浦島太郎物語の問題点、 テキストの「プロローグ」をよく読んでおくこと。 第2・3回：古代の浦島子伝承、 テキストの第2章をよく読んでおくこと。 第4回：浦島子伝承の源流、 テキストの第2章をよく読んでおくこと。 第5回：浦島太郎の成立—『御伽草子』、 テキストの第3章をよく読んでおくこと。 第6・7回：江戸時代の浦島太郎の展開、 テキストの第4章をよく読んでおくこと。 第8回：明治・大正時代の浦島太郎、 テキストの第5章をよく読んでおくこと。</p> <p>日本人にとってなじみ深い浦島太郎物語が古代にさかのぼるだけでなく、中国や韓国にも類似した物語があることを理解し、それがどのように日本で定着し展開していくか、その流れを考察する。浦島太郎の物語は、実は古代の医療観とも関係するので、1年時の「歴史」の授業を履修しておくことが望ましい。教養を高めようという受講生を求める。準備学習は、予習・復習それぞれ各1時間計2時間必要である。</p>					
成績評価の方法	レポートによって評価100%を行う。レポートは、授業の内容を理解した上で、自ら浦島太郎の物語を書く、というものである。				
テキスト	三舟隆之『浦島太郎の日本史』（歴史文化ライブラリー285、吉川弘文館）。必要に応じて、授業ごとにプリントを配布する。				
参考図書	瀧音能之・三舟隆之『丹後半島歴史紀行—浦島太郎伝説探訪』（河出書房新社）				

備 考	<ul style="list-style-type: none">・「歴史」の授業を履修しておくことが望ましい。・質問等は授業終了後、教室で受け付ける。再試験は実施しないが、不十分な内容のレポートについては再提出を求めることがある。
授 業 計 画	
<p>第1回：現代の浦島太郎</p> <ul style="list-style-type: none">・現代の「浦島太郎」の問題点を挙げる。 <p>第2回：浦嶋子伝承 I</p> <ul style="list-style-type: none">・奈良時代に成立した『日本書紀』『丹後国風土記』『万葉集』の浦嶋子伝承を解説する。 <p>第3回：神仙思想</p> <ul style="list-style-type: none">・神仙思想の不老不死の世界を解説し、日中説話の比較を行う。 <p>第4回：浦嶋子伝承 II（</p> <ul style="list-style-type: none">・平安時代のその後の浦嶋子伝承である『浦嶋子伝』の成立を解説する。 <p>第5回：中世の浦島物語</p> <ul style="list-style-type: none">・『御伽草子』の浦島伝承の成立を考える。 <p>第6回：近世の浦島物語</p> <ul style="list-style-type: none">・近世の浦島物語のパロディー化や、神奈川・木曾の浦島寺の成立を紹介する。 <p>第7回：近代の浦島物語</p> <ul style="list-style-type: none">・国定教科書の浦島と浦島文学が、「浦島太郎」に与えた影響を考える。 <p>第8回：まとめ</p>	